



この度は、新日軽の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しい施工をしていただく為此のマニュアルをお読みください。
施工完了後はお施主様へお渡ししてください。

■ 安全にお使いいただくために必ずお守りください。

このマニュアルに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者が負傷する危険や物的損害の発生することを表しています。		「必ず行なっていただくこと」を示しています。

⚠ 注意

- デッキを大引に固定する皿ビスの頭が必ずデッキ面以下となるように施工してください。またビス部分に樹脂のささくれ等が発生した場合、必ずヤスリできれいにしてください。
- デッキ端部等でケガをしないように、軍手、安全靴を使

用してください。

- デッキ上のフェンスや、ハイパーテーションに乗ったり、揺すったりしないでください。
- デッキ上のフェンスや、ハイパーテーションに雨具、洗濯物、布団等を載せないでください。



使用上のご注意について

- デッキ上のフェンス・ハイパーテーションに鉢等をかける場合は、1枚当り5kgを越えないようにしてください。
- 樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性を持っていますが、濃酸、濃アルカリ、又シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は、使用しないでください。
- デッキの近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると

変形、割れを生じることがあります。

- 樹脂は、微小火源では着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。又、70℃以上になると変形しますので、近くで焚火をしたり高温のものを近付けたりしないでください。
- 表面が汚れた時は水洗いしてください。洗剤を使用する際は中性洗剤を水でうすめて使用し、よく水で洗い流して拭きとってください。

樹脂製品のお手入れ方法について

年に数回の水洗いと、空ぶきだけでも効果的です。ただし、工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。

汚れが軽い場合: やわらかい布かスポンジで水ぶきした後空ぶきしてください。
汚れが目立つ場合: 中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし洗剤が残らないように水洗いしてから空ぶきしてください。

「木樹脂」は新日軽の登録商標です。

施工上のご注意

新日軽のアルミ製品はJISの表面処理規定を十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱によっては異常腐食を起こし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点に注意してください。

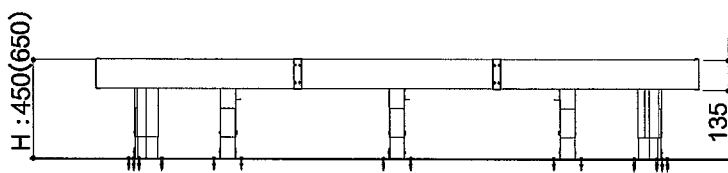
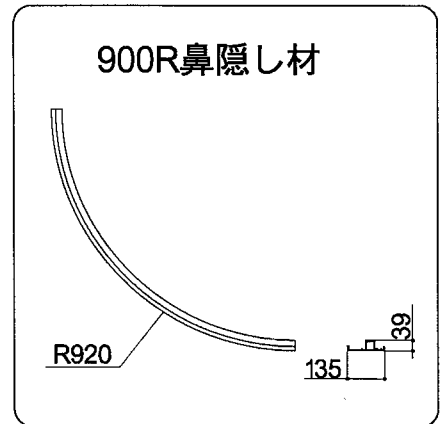
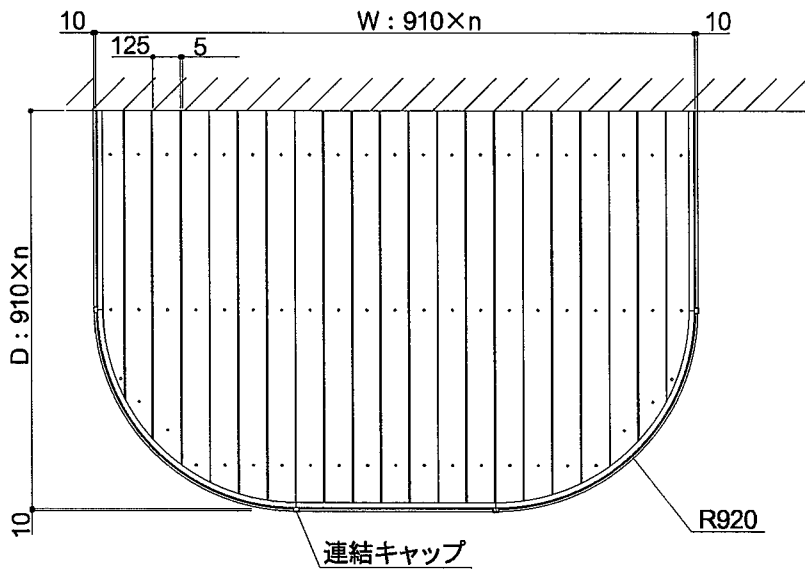
- (1) モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- (2) モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品の表面に流れないように注意してください。
- (3) モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
- (4) 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- (5) アルミ製品と異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- (6) 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- (7) 輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
- (8) 柱内部にモルタルやコンクリートが入らないように施工時に注意してください。
- (9) 基礎施工の際は地下の埋設物にご注意ください。また寒冷地はその地域にあった基礎工事をしてください。
- (10) 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。

* 汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープ等の接着面で軽くたたくようにしてください。

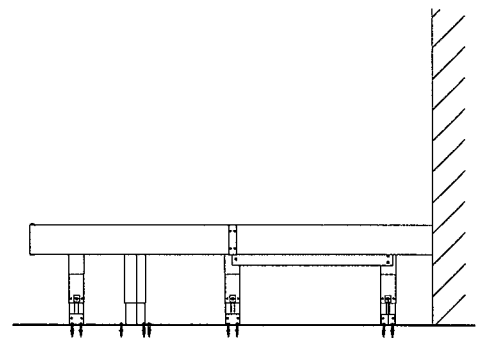
◆ 規格表

製品名称		梱包内容
R鼻隠し	900R	R鼻隠し① セット部品 SB-3487 (M5×50皿セルフドリリングビス:⑩、型紙 ETC-4263:① 組立施工マニュアルME-1522:①)

■ 基本モジュール



前面

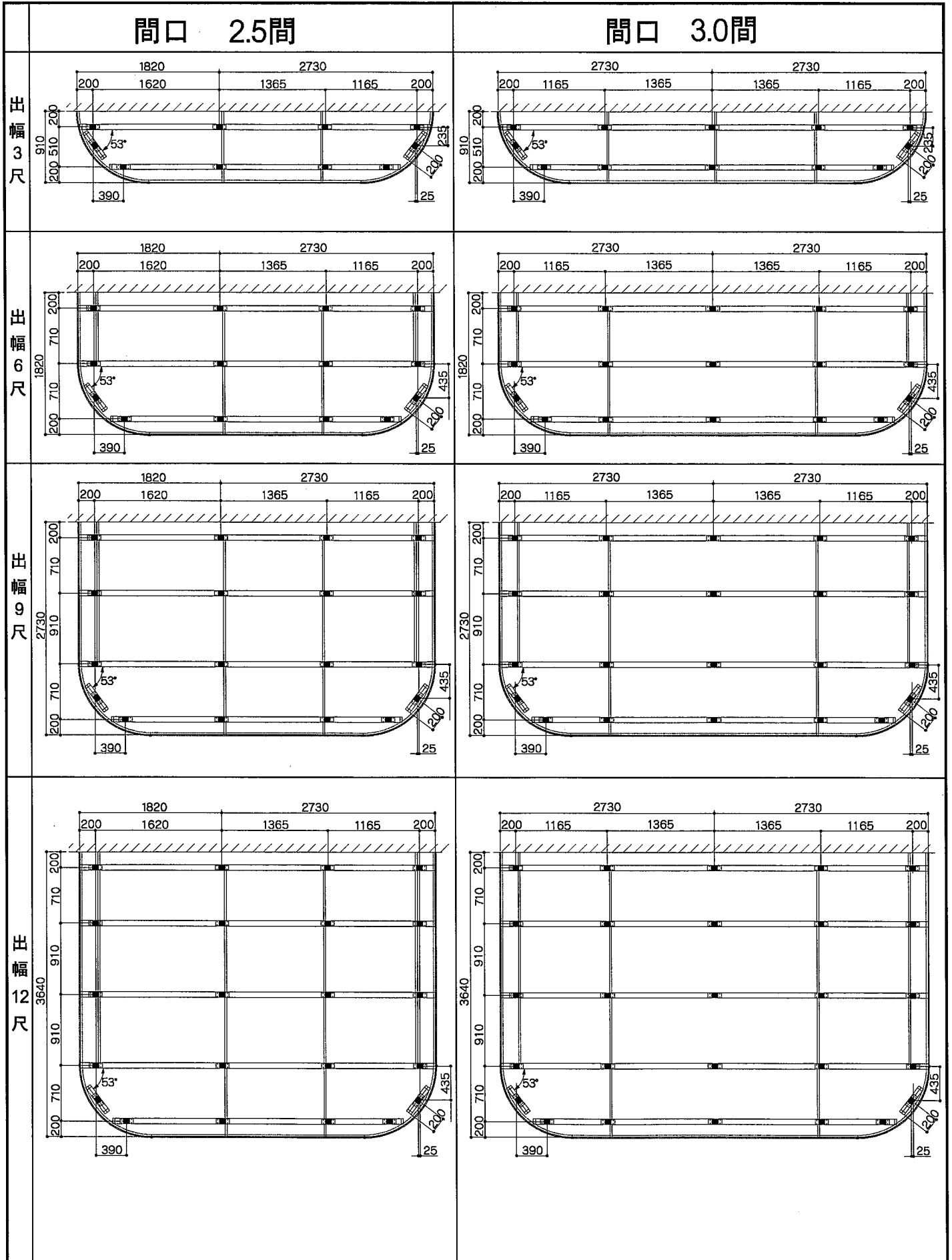


側面

■ 東柱の位置 (デッキ材たて張り 単体)

	間口 1.0間	間口 1.5間	間口 2.0間
出幅 3 尺			
出幅 6 尺			
出幅 9 尺			
出幅 12 尺			

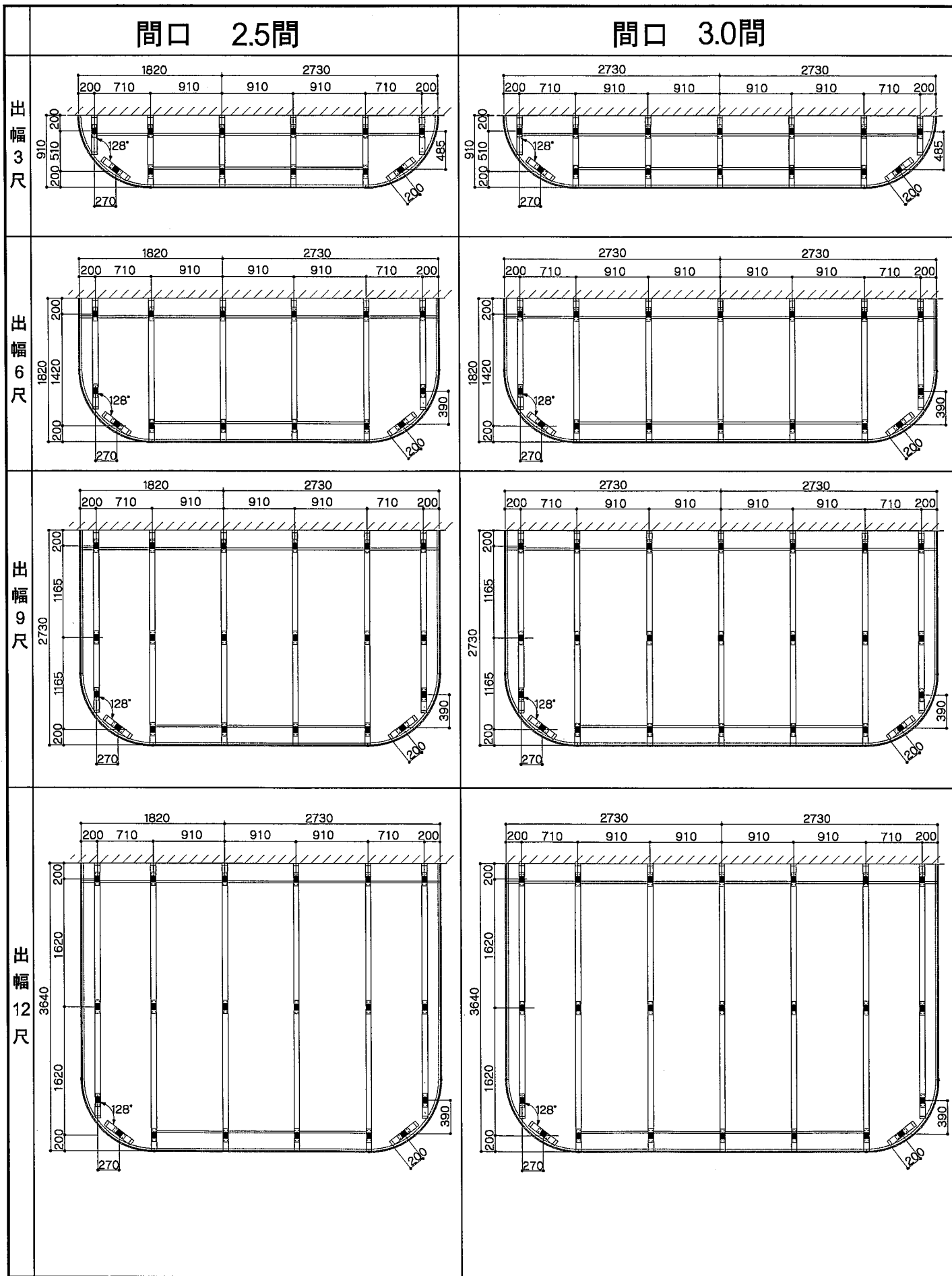
■ 東柱の位置 (デッキ材たて張り 連棟)



■ 東柱の位置 (デッキ材よこ張り 単体)

	間口 1.0間	間口 1.5間	間口 2.0間
出幅 3 尺			
出幅 6 尺			
出幅 9 尺			
出幅 12 尺			

■ 東柱の位置 (デッキ材よこ張り 連棟)



組立手順

1 大引の加工

右図を参考に大引を切断及び加工してください。

〈デッキ材たて張り〉

① 出巾3尺の場合

〈切断寸法〉

大引A: $L1 = L - 70$

大引B: $L2 = L - 825$

大引C: $L3 = L - 409$



ポイント

大引Bの両端から大引Cを切り取る。

② 出巾6尺以上の場合

〈切断寸法〉

大引A: 現行品をそのまま使用

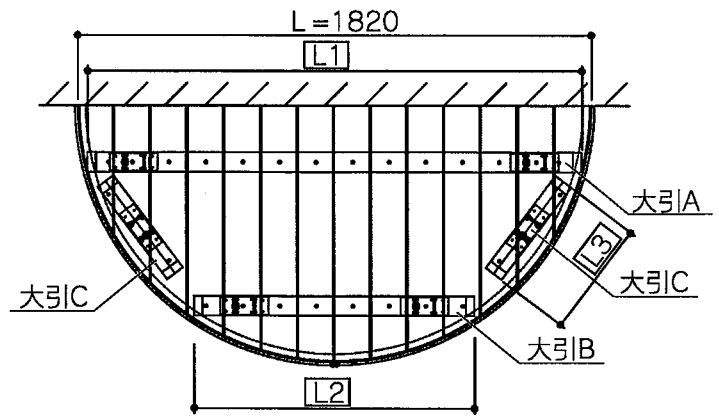
大引B: $L2 = L - 825$

大引C: $L3 = L - 409$



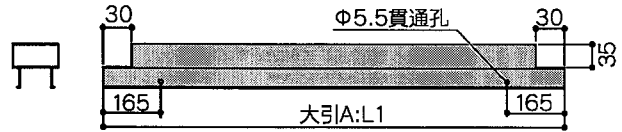
ポイント

大引Bの両端から大引Cを切り取る。

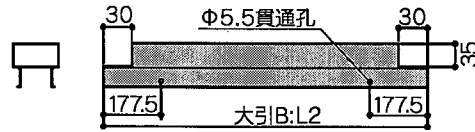


〈加工〉

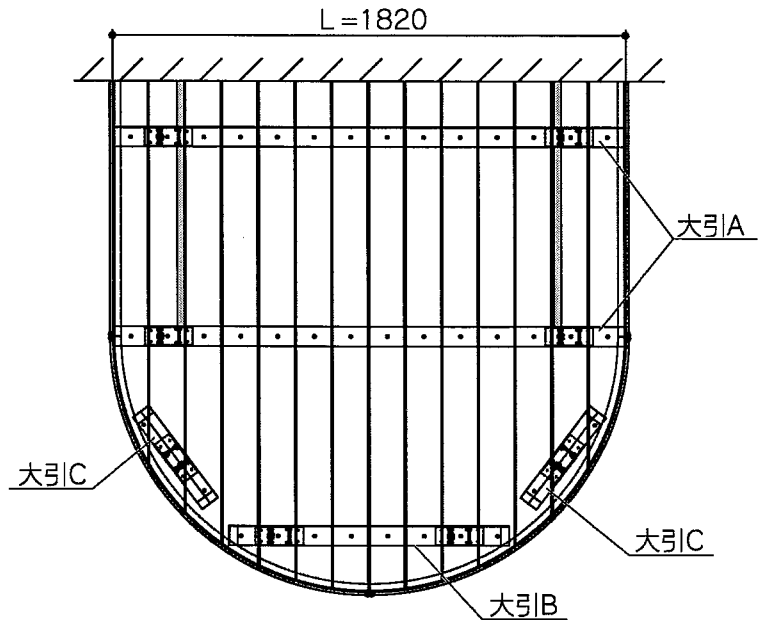
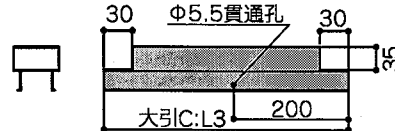
大引A



大引B

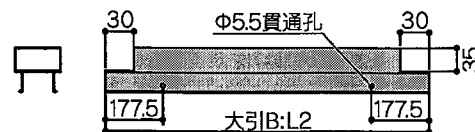


大引C

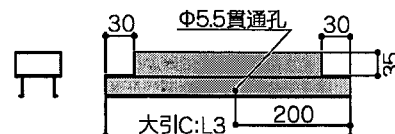


〈加工〉

大引B



大引C



〈デッキ材よこ張り〉

① 出巾3尺の場合

〈切断寸法〉

大引A: 現行品をそのまま使用

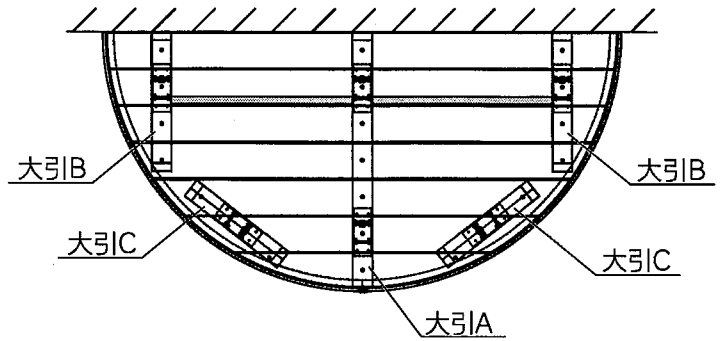
大引B: $L2 = L - 415$

大引C: $L3 = 412$



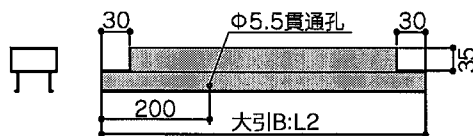
ポイント

大引Bより大引Cを切り取る。

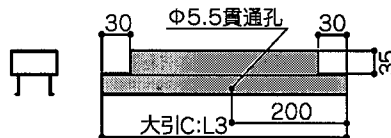


〈加工〉

大引B



大引C



② 出巾6尺以上の場合

〈切断寸法〉

大引A: 現行品をそのまま使用

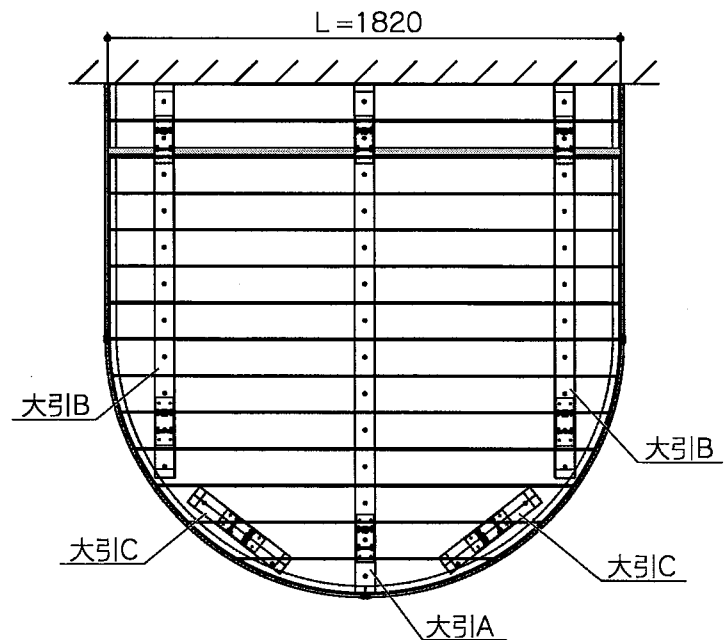
大引B: $L2 = L - 415$

大引C: $L3 = 412$



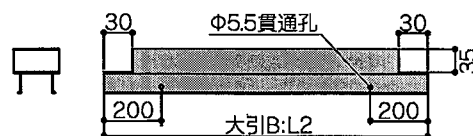
ポイント

大引Bより大引Cを切り取る。

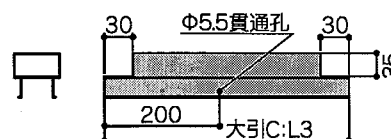


〈加工〉

大引B



大引C



2 束柱の取付け

大引の孔加工の位置に合わせ
Φ5×16トラスの取付けビス
で束柱を大引に固定してくだ
さい。

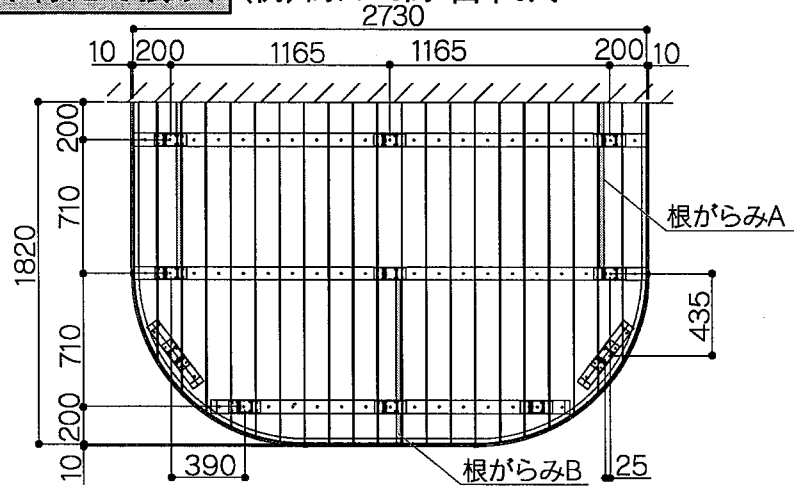
⚠ 注意

束柱は、連棟を考慮した孔加工
になっています。
通常の取付けでは、中央の孔
を利用し大引へ取付けてくだ
さい。

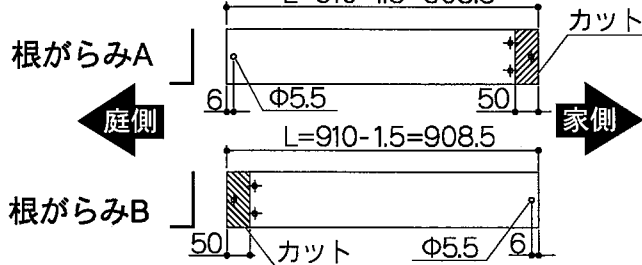
3 根がらみの加工と 取付け

右図を参考に根がらみを
切断及び加工し、束柱へ
Φ5×16トラスで取付けて
ください。

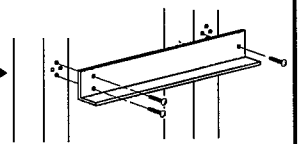
〈デッキ材たて張り〉 (例) 間口1.5間 出巾6尺



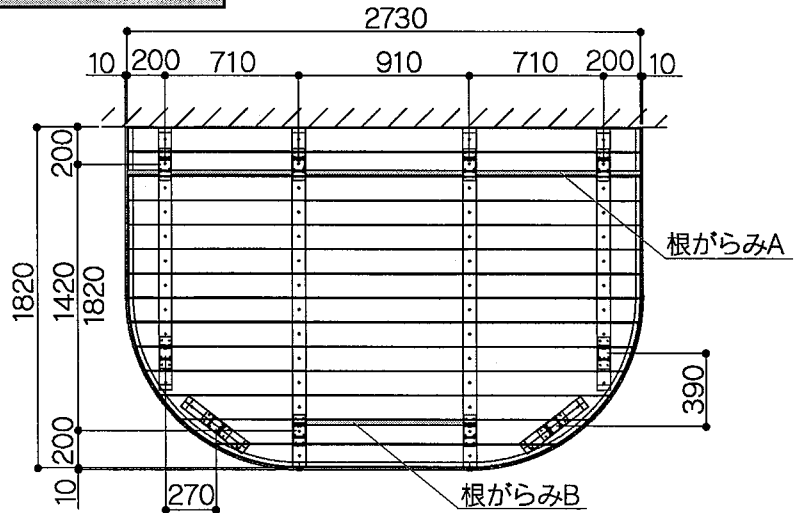
〈加工〉



〈取付方法〉

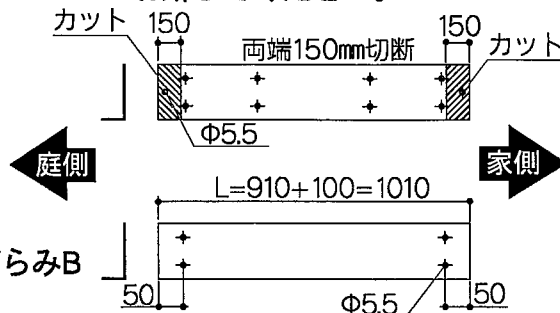


〈デッキ材よこ張り〉 (例) 間口1.5間 出巾6尺

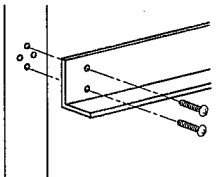


〈加工〉

根がらみA 現行品を使用
① 連棟の場合は、片側のみ150mm
切断してください。



〈取付方法〉



⚠ 注意

根がらみ取付位置は、ページ
3~6までの割付図を参照して
ください。

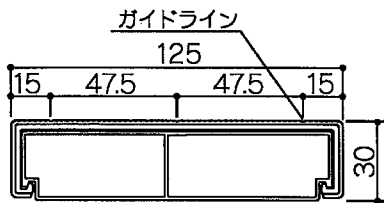
4 束柱の固定 (本体取説参照)

束柱の位置は、ページ3~6までの割付図を参照して大引を配置してください。

5 デッキ材の取付け

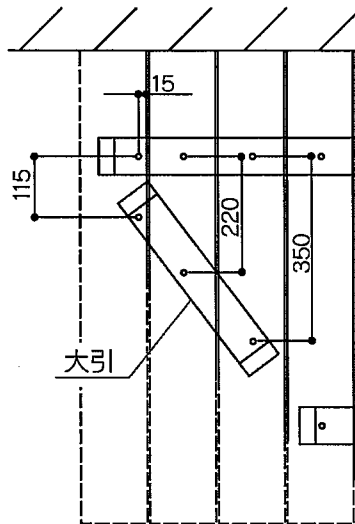
⚠ 注意

デッキ材には、ビス打ち用にガイドラインが3本ついています。ビスを打つ時は必ずそのライン上に、打つようにしてください。

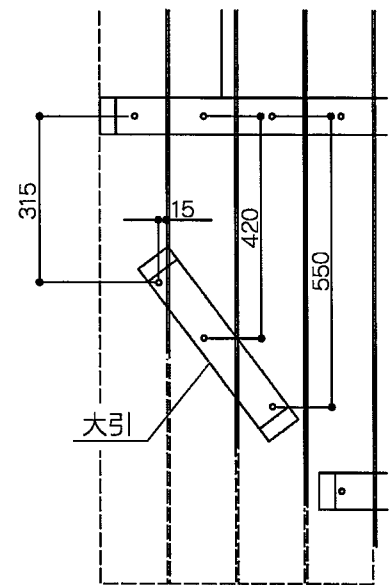


〈デッキ材たて張り〉

〈出巾3尺の時〉



〈出巾6尺以上の時〉

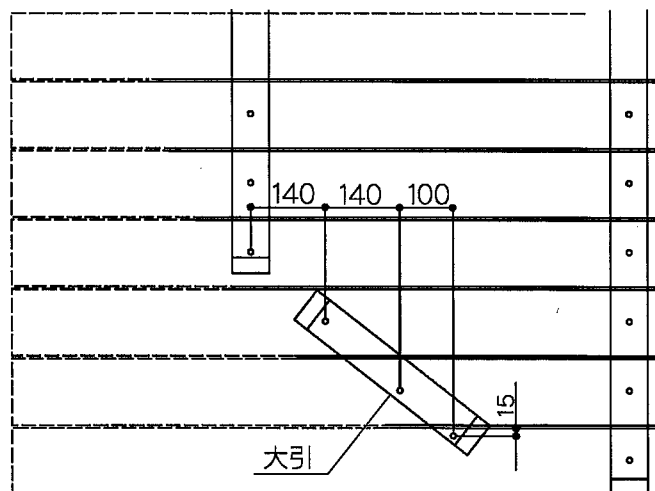


〈ビス止め位置〉

両端部のビス止め位置は、指示寸法箇所にビス止めしてください。

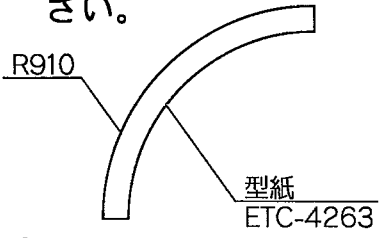
〈デッキ材よこ張り〉

〈全サイズ共通〉



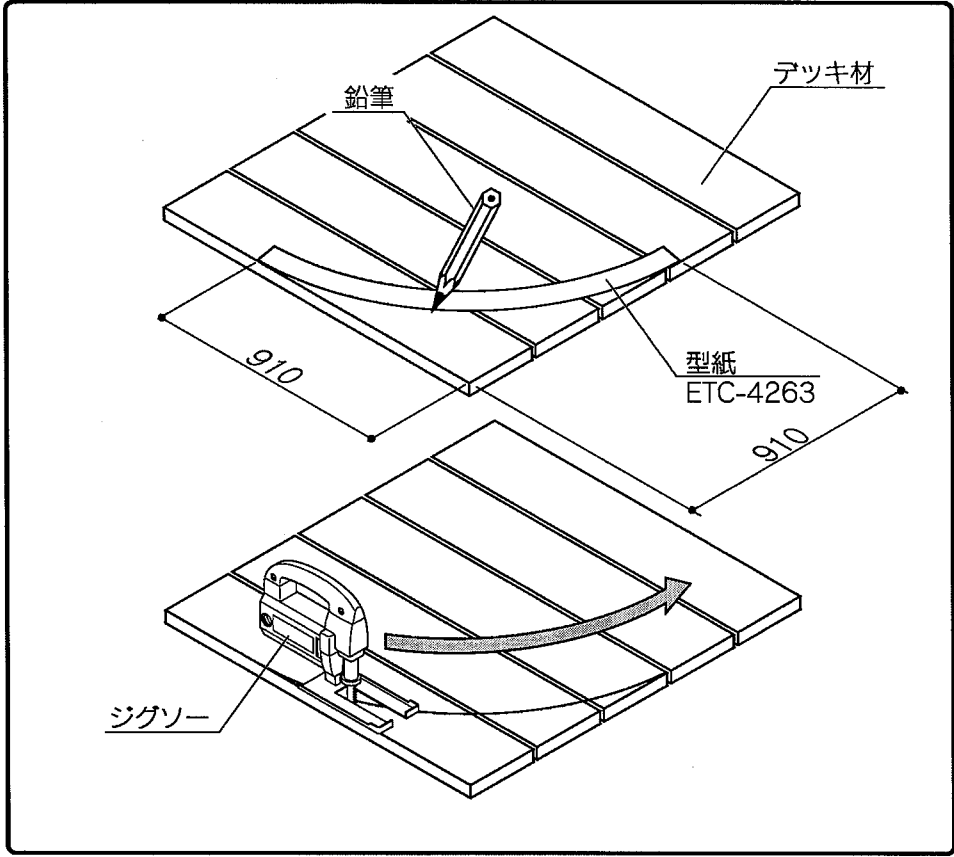
6 デッキ材のR加工

① デッキ材上に型紙を合わせ、型紙のR910側に鉛筆等でしるしをつけてください。



② しるしに合わせてジグソー等でR加工をしてください。

⚠ 注意
 デッキの樹脂カバーを止めているビスに当たる箇所は、ビスを外して加工してください。



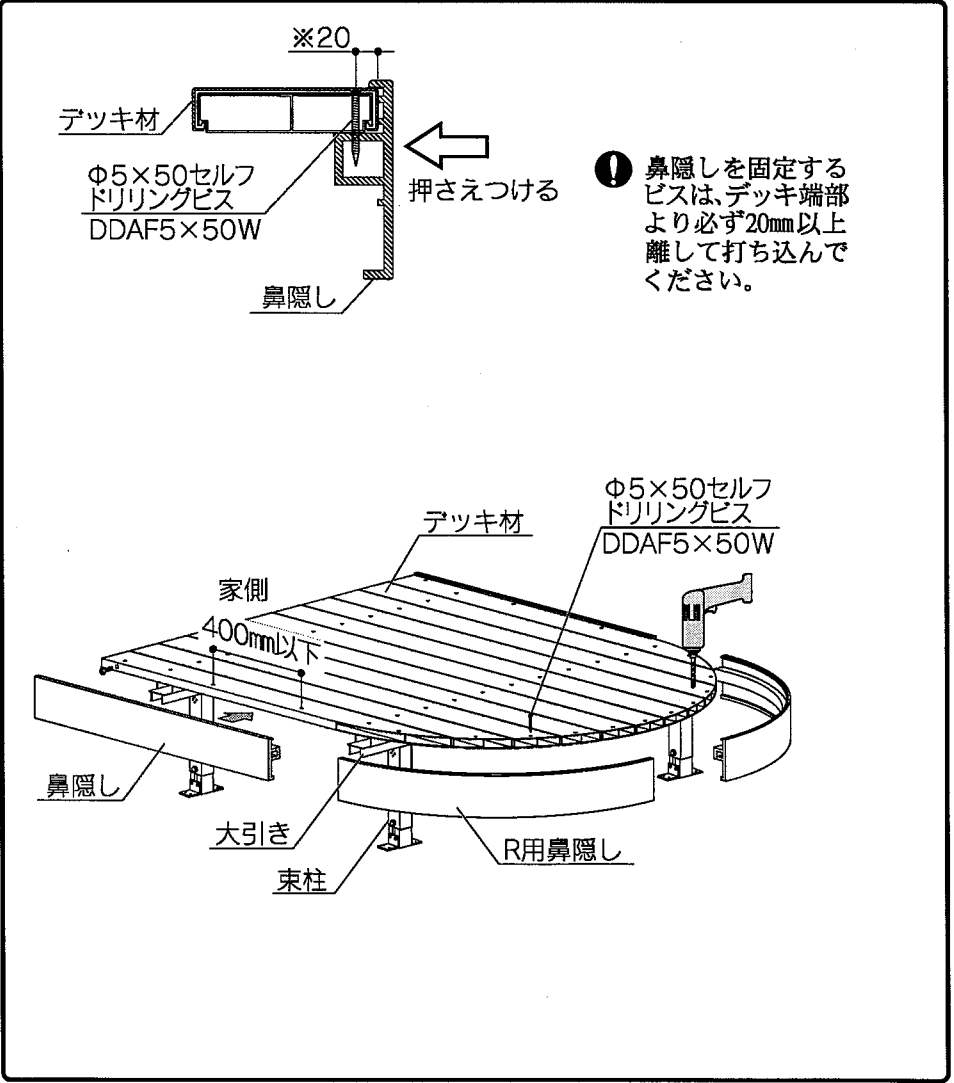
7 鼻隠しの取付

① 鼻隠しの取付け

- 直線部分は、デッキ材にデッキ端部より20mmの部分に孔ピッチ400mm以下にてφ6の貫通孔をあけます。
- デッキ材R部分は、1枚につき1ヶ所づつφ6の貫通孔をあけます。
- デッキ材の木樹脂部分のみφ9のざぐり加工をしてください。鼻隠しをデッキ材に押しつけ、デッキ上部よりφ5×50セルフドリリングビスでデッキ材に固定します。

⚠ 注意
 デッキ材にあける貫通孔は、デッキについているガイドライン部分にあけてください。

⚠ 注意
 鼻隠しを取付ける際、デッキ側面のビスが鼻隠しにあたる場合は、ビスを抜いてください。



②直線部の鼻隠しの取付け
(現場の長さに合わせて
切断してください。)

- ・単体、連棟にかかわらず、右図
の様に加工してください。

